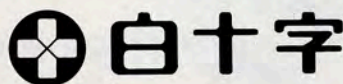


2月12日(金)

2010年(平成22年)

発行所: 東京都千代田区一ツ橋1-1-1
〒100-8051 電話(03)3212-0321
毎日新聞東京本社

医療・介護のトータルヘルスケア



白十字 検索

NEWSLINE

日韓併合から100年 8・9
 関妃暗殺に関与した父を持つ韓国農業の父、禹長春を通じて日韓併合100年を振り返る。

ギリシャ支援を表明 3・7
 欧州連合(EU、加盟27カ国)は11日、非公式首脳会議を開き、深刻な財政危機に陥ったギリシャへの支援を表明した。

「病院の専門家」が活躍 16
 放射線技師、管理栄養士などメディアカルスタッフの活躍に期待が高まっている。スキルを積極的に活用する取り組みも始まっている。

トヨタ社長の訪米要請 2
中国の農地酸性化進む 3
王将戦 久保2勝1敗 24
粉飾疑惑 元会長ら逮捕 25

小2の秋から「女の子」

埼玉の公立小 性切り替え 容認

性同一性障害 身体的な性別と心理的な性別が一致せず、体に強い違和感を覚えて悩む疾患。正確な統計はないが、国内に少なくとも1万人以上いると推計される。04年に一定の条件を満たした成人に対し、戸籍上の性別変更を認める特例法が施行され、08年までに1263人が認められている。

の約7割が自殺を考えた。約2割は未遂などの経験があった。自殺を強く考えた時期は中学生が37%で最も多く、小学生も約13%。中塚教授は「今も多くの子が誰にも相談できず悩んでいるので」と推測する。GIDは「と推測する。GID

埼玉県の公立小学校が性同一性障害(GID)と診断された小学2年の男児(8)に対し、学年の途中から女児としての登校を認めていることが分かった。全校児童や保護者にも事情を公表している。専門家によると、小学校入学時に学校と相談し戸籍と逆の姓で登校を始める例は学会で数例報告されているが、在学中で生活上の性別を切り替えるのは初めてとみられる。これまで光が当たらなかった子どもの性同一性障害とどう向き合うか、議論が活発化しそうだ。(社会面に関連記事、15日から17日ナビ面で連載)

性同一性障害の8歳

家族によると、児童は幼稚園の段階から体が男であることへの違和感があり、小学校入学後は男児用の水着を着たり立って小便することへの苦痛を激しく訴え、不眠がちになった。このため昨年2月に埼玉医科大学のジェンダークリニックを受診、翌月GIDと診断された。主治医の塚田攻医師は診断書に「就学等の適応を阻害しないために女性として扱ふ配慮が望ましい」との意見を記した。学校側は主治医や親と相談し「本人の苦痛を取り除くことを最優先しよう」(校長)と判断。夏休み明けの同年9月、校長が全校児童に、母親がクラスの保護者に説明し、女児としての学校生活が認められた。

児童は学籍は戸籍通り男児のままだが、男女性別に整列する際や体育の授業などでは女児のグループに入っている。子どものGIDが公になることはまれだが、岡山大の中塚幹也教授らが当事者661人に聞き取り調査したところ、約8割が小学

日韓併合 「民族の誇り」 岡田外相、韓国

【ソウル野口武則】

談した。今年が日韓併

性同一性障害 女兒として登校

「なぜ私は女の子なのに、男の子の体なの?」。性同一性障害(GID)に苦しみ眠れない夜を過ごしてきた埼玉県の小学2年男児(8)が昨年秋から学校に女兒としての通学を認められ、元気に登校できるようになった。「学校に認めてもらえなかったらフリースクールを探すしかない」と覚悟していた母親(46)はひとまず胸をなで下ろすが、悩みは尽きない。【丹野恒一、写真も】

昨年9月の始業式。校長は全校児童の前で語り始めた。「2年生に、体は男の子だけれど心は女の子の児童がいます。そのせいでずっと苦しんできましたが、思い切って女の子としてみんなの前に出てくることになりました。温かく見守ってください」
母親は保護者懇談会で子どもがGIDと診断されたことを打ち明けた。「どうしても女の子として学校に行きたいと言っています。希望をかなえてやりたい。お願いします」。異論は出ず、女兒としての生活が始まった。



児童はもともと男女どちらでも通
用する名前で、呼び名を変える必要
も徒競走は「体力差がある」との理
由で、男児と一緒に走った。母親は
「髪を伸ばしているので男の子たち
れ、可哀そうだった」と振り返る。

理解求め 手探り

はなかった。トイレは女性教員用を使っている。秋の運動会では、入場行進やダンスは女兒のグループで

「髪を伸ばしているので男の子たち
れ、可哀そうだった」と振り返る。

今後の心配は体つきや声が変わってきた時のことだ。西日本の小学校では周囲の児童や保護者に公表せず女兒として入学した男児が高学年になっているが、水泳の授業はフリルの付いた水着を着て下半身を隠し、宿泊行事の際は寝間着が乱れても困らないよう、就寝後に教師が女兒たちの部屋から運び出したという。一方、埼玉県の児童の場合は周囲も事情を知っている。学校側は学年が上がってからも、他の子たちとの関係がうまくいくような支援を手探りで考えていくことになる。

母親は「心配なことを挙げればきりがないが、誰もが当然のように経験していくことをその都度クリアしていけるよう、精いっぱい手助けしたい。これをきっかけに、社会の理解が進むといい」と願っている。

女の子として学校生活を送っている児童。「学校がとても楽しくなった」と話す。埼玉県で

2010年(平成22年)2月12日(金) 夕刊

は「大学側が見舞金を支払っていたことは知らなかった」と話している。 【青木純】

性同一性障害

「思い尊重を」

文科相

性同一性障害（GID）と診断された埼玉県の公立小2年の男児（8）が、学年の途中から女兒としての登校を認められたことについて、川端達夫文科科学

相は12日の閣議後会見で、GIDの子供への支援に積極的な姿勢を示した。川端文科相は、埼玉のケースを確認していないとしつつ「当人にとって非常にアイデンティティーにかかわる問題。本人の思いを最大限尊重してあげべきだと思う」との見解を示した。そのうえで「法的な制度など幅広く検討する時期に来ている」と述べた。